



Title	スウェーデン語の過去分詞による属性描写
Author(s)	當野, 能之
Citation	IDUN ー北欧研究ー. 2015, 21, p. 1-16
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/95510
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

スウェーデン語の過去分詞による属性描写

當野 能之

1. はじめに

英語やドイツ語には「中間構文 (Middle Construction)」と呼ばれる次のような構文が存在し、この構文をめぐるこれまで様々な議論がなされてきた。

- 1) The book reads easily.
- 2) Das Buch liest sich leicht.
the book read RM easily

〈その本は簡単に読める。〉

この構文は動詞の本来の目的語が主語として現れ、その性質・属性などを述べる文である。動詞の形態を見るかぎり能動態と同じであるが、他動詞の本来の目的語が主語に対応する点で受動文との共通性もあり、「能動受動 (activo-passive)」などと呼ばれることもある。英語とドイツ語の中間構文の統語的な違いは、ドイツ語が再帰代名詞を伴うのに対して、英語は表面上何も現れない点にある。さて、英語・ドイツ語と同じゲルマン語派に属するスウェーデン語には、中間構文に相当するものは存在するだろうか？

- 3) *Boken läser lätt.
book.DEF read easily
- 4) *Boken läser sig lätt.
book.DEF read RM easily

3) からも分かるように、スウェーデン語では英語タイプの中間構文を作ることはいできない。¹ また、4) に見るように、ドイツ語のような再帰代名詞を伴う中間構文も形成できない。² しかし、もちろんスウェーデン語にも同様の意味内容を表現する構文は存在する。次の “lätt (easy) +過去分詞” を用いたものがそれに当たる。英語・ドイツ語

¹ ただし sälja (sell) に関しては、英語タイプの中間構文が可能である。しかし、この構文を取る動詞は、ほぼこの一語に限られる。(Sundman 1988: 291)

Boken säljer bra.
book.DEF sell well
〈この本は良く売れる。〉

² スウェーデン語には再帰代名詞から発達した受動形態素 -s があるが、この接尾辞も中間構文を形成することはできない。

*Boken läse-s lätt.
book.DEF read-PASS easily
〈この本は簡単に読める。〉

の中間構文が「意味は受動，形は能動」だとすると，スウェーデン語の 5) の構文は「意味も形も受動」ということになる。

- 5) Boken är lättläst.
book.DEF is easy.read.PSTP
〈その本は簡単に読める.〉

läsa(read) 以外の動詞の例を以下に，いくつか挙げておく。

- 6) ... bilen är otroligt bra och lättkörd. (Korp³)
car.DEF is incredibly good and easy.drive.PSTP
〈その車は非常にすばらしく運転しやすい.〉
- 7) Fina möbler är alltid lättsålda på auktion,... (Korp)
fine furniture is always easy.sell.PSTP on auction
〈すばらしい家具はいつもオークションで簡単に売れる.〉
- 8) Omelett är lättlagat... (Korp)
Omelett is easy.cook.PSTP
〈オムレツは簡単に作れる.〉
- 9) ... folk på stan är så lättpratade och vänliga... (Korp)
people on town.DEF is so easy.talk.PSTP and kind
〈その町の人々はとても話しやすく親切だ.〉
- 10) Lättpromenerade stigar leder genom skogen. (Korp)
easy.promenad.PSTP paths lead through forest.DEF
〈散歩しやすい小道がその森の中を通っている.〉

筆者の知る限り，スウェーデン語文法の中ではこのような構文はこれまで等閑視されてきた。本稿では，この構文に関して主に次の 2 点に絞って考察する。ひとつは，スウェーデン語の当該構文を英語・ドイツ語の中間構文と対照させながら，記述的な考察を行う。二つ目は，英語・ドイツ語・スウェーデン語というゲルマン系の 3 言語で，対象の属性を表わす表現にそれぞれ違う手段が用いられているが，それらには Shibatani (1985) のいう「動作主の背景化 (agent-defocusing)」という共通した語用論的機能があり，それにより統一的に説明することが可能であると主張する。ところで，本稿では便宜的に 5) - 10) に代表されるような構文を「過去分詞属性描写文」と呼び，またそこに現れる過去分詞を「属性描写過去分詞」と呼ぶことにする。

³ 例文に (Korp) と付されている場合は，コーパス (<http://spraakbanken.gu.se/korp/>) からの用例である。

2. 属性描写過去分詞の基本的特徴

さて、そもそもこれらのスウェーデン語の文が英語・ドイツ語等の中間構文と同等に扱うことができるかどうかという所から議論を始めなければならない。一般に、英語等における中間構文は次のような特徴をもっていると言われている。

- 11) a. 主語は他動詞の意味上の目的語に相当する.
- b. 主語の一般的性質や属性を表す. (特定の出来事を表わさない.)
- c. 時制は基本的に単純現在である.
- d. 他動詞の意味上の主語は表面上には現れない.
- e. 通常, easily, well などの副詞を伴う.

スウェーデン語の当該構文も、本来の目的語が主語に対応し、その属性を述べる文であるので、基本的に 11a) と 11b) の特徴は共有している。以下では、11c) - 11e) に関して順に考察しながら、スウェーデン語の過去分詞属性描写文の特徴を見ていきたい。

《時制等に関する制約》

中間構文は主語の一般的性質や属性を表わす。そこで、特定の出来事を表わしてしまふ 12) のような過去時制の文は非文となる。

- 12) *This book read easily yesterday.

ところがスウェーデン語の当該構文では、13) から分かるように過去時制でも問題はない。ただし、過去の特定の時点を表わす副詞をつけることはできず、やはり特定の出来事を表わせないという点では共通している。

- 13) Boken var lättläst (*? igår).

book.DEF was easy.read.PP yesterday

〈この本は昨日読みやすかった。〉

さて、なぜ英語の中間構文では多くの場合、過去時制で非文となり、一方、スウェーデン語では過去時制の文が問題ないのであろうか？ これには、述語の品詞の違いが関わっているものと思われる。英語・ドイツ語の中間構文では述語が動詞である。一般に、動作動詞は単純現在形で用いられた場合、属性・性質等を表わしうるが、過去時制の場合は基本的に出来事の解釈しかできない。一方、スウェーデン語の属性描写過去分詞は後で見るように、形容詞としての特徴をもっている。形容詞は過去形のコンピュータと用いられた場合でも、もちろん過去における属性・性質を表わしうる。

《潜在的動作主の存在》

中間構文には、people in general (人々一般、誰にでも) という動作主が存在すると考えられている (Fellbaum 1985)。ただし、次の 14) から分かるように、それは意味上含意されるだけで、by-句による動作主の生起は許されない。

- 14) The book reads easily {*by him/*by people}.

一方、スウェーデン語でも「誰にでも」という総称的な含意がある。また、英語と同じように受動文で動作主を表わす av-句によって動作主を表出することは許されない。

- 15) Den här boken är lättläst {*av honom /*av alla}.

this book.DEF is easy.read.PSTP { by him / by all}

〈この本は{彼/すべての人々}にとって簡単に読める。〉

《義務的な副詞/形容詞》

大半の中間構文では、well, easily 等の副詞要素が伴う。これらの副詞要素を欠く場合には容認されないことが多い。

- 16) *The book reads.

一方、スウェーデン語では形容詞が過去分詞の前につき複合語となる。過去分詞に前置する形容詞には行為の容易さを意味する lätt (easy) 以外に, svår (difficult), tung (heavy) などの行為の難しさを表わすものがある。lätt, tung にはそれぞれ、物理的な意味での「軽い」「重い」という意味もあるが、この構文で使われる際には「簡単な」「難しい」という難易の意味に限定される。

- 17) Boken är {svår- /tung-} läst.

book.DEF is {difficult-/heavy-} read.PSTP

〈この本は読みにくい。〉

スウェーデン語においてもこれらの形容詞は必須要素である。形容詞がない場合は、主語の属性の解釈はなく、次に見るように受動の解釈である。

- 18) Boken är läst av tusentals människor.

book.DEF is read.PSTP by thousands.GEN people

〈この本は何千人という人々に読まれている。〉

以上、見てきたように過去分詞属性描写文は、基本的な点では英語・ドイツ語の中間構文と類似した振舞いを示す。

しかしながら、両者には根本的な相違点も存在する。英語・ドイツ語の中間構文では、述部の品詞が動詞であるのに対し、スウェーデン語の属性叙述過去分詞は形容詞としての一連の特徴を示す。19) では通常の形容詞と同じく修飾語として名詞の前に用いられ、20) では比較変化を起している。さらに、21) では形容詞のみを修飾する程度副詞 ganska (fairly), relativt (relatively) が属性描写過去分詞を修飾している。また、22) では形容詞と結びついて名詞を作り出す接尾辞 -het (-ness) が属性描写過去分詞につくことを示している。

- 19) En lättläst bok.
a easy.read.PSTP book.
〈読みやすい本〉
- 20) Boken är mer lättläst än hans tidigare bok.
book.DEF is more easy.read.PSTP than his previous book
〈その本はかれの以前の本より読みやすい.〉
- 21) Boken är {ganska/relativt} lättläst
book.DEF is {fairly/relatively} easy.read.PSTP
〈その本は {かなり / 比較的} 読みやすい.〉
- 22) lättläst-het
easy.read.PSTP -ness
〈読みやすさ〉

スウェーデン語では形容詞は名詞の性・数と一致を起こす。また形容詞が名詞を修飾する場合（つまり限定用法の場合）は、さらにその名詞の定・不定にも一致する。属性描写過去分詞も次の例から分かるように形容詞と同様の一致現象を示す。

- 23) a. en lättlaga-**d** rätt [共性・単数・不定]
a easy.cook.PSTP meal.NON-N.SG
〈作りやすい料理〉
- b. ett lättlaga-**t** recept [中性・単数・不定]
a easy.cook.PSTP receipt.N.SG
〈作りやすいレシピ〉
- c. två lättlaga-**de** rätter [複数・不定]
two easy.cook.PSTP meals NON-N.PL
〈二つの作りやすい料理〉
- d. den lättlaga-**de** rätten [定]
the easy.cook.PSTP dish.NON-N.SG.DEF
〈その作りやすい料理〉

さて、ここまでで過去分詞属性描写文が英語・ドイツ語の中間構文とは異なり、形容詞述語文であるということが明らかになった。

3. 動詞に関する制約

次に、過去分詞属性描写文に用いられる動詞について考えてみたい。この構文に用いられる動詞はその多くが他動詞である。まずは、その他動詞に関して、語彙的アス

ペクトの点から観察してみよう.⁴

《行為動詞 (activity verb)》

24) Bilen är lättkörd.

car.DEF is easy.drive.PSTP

〈その車は運転しやすい.〉

25) ... jag tycker den är svåränvänd, ...

(Korp)

I think it is difficult.use.PSTP

〈私はそれは使いにくいと思います.〉

《達成動詞 (accomplishment verb)》

26) Boken är lättläst.

book.DEF is easy.read.PSTP

〈その本は読みやすい.〉

27) Planet är lättbyggt ...

(ネットからの実例)

plane.DEF is easy.build.PSTP

〈その(模型の)飛行機は作りやすい.〉

《到達動詞 (achievement verb)》

28) ... flygplatsen är lättnådd för fyra nationer.

(Korp)

airport.DEF is easy.reach.PSTP for four nations

〈その空港は4か国にとってアクセスしやすい.〉

29) Lösningen är inte lättfunnen!

(Korp)

solution.DEF is not easy.find PSTP

〈その解決策が簡単に見つからないわけではない.〉

⁴ Fagan (1992) は、動詞のアスペクトによって中間構文の適格性が決まるという制約を提案している。行為動詞 (activity verb) と達成動詞 (accomplishment verb) のみが中間構文を形成し、状態動詞 (stative verb) と到達動詞 (achievement verb) は中間構文では許さないという..

- | | | | |
|----|--------------------------|------|------------------------------|
| 1) | This car drives easily | [行為] | (Fagan 1992: 68) |
| 2) | This book reads easily. | [達成] | (<i>ibid.</i>) |
| 3) | *The top reaches easily. | [到達] | |
| 4) | *The answer knows easily | [状態] | (Keyser and Roeper 1984:383) |

《状態動詞 (achievement verb)》

- 30) Texten är lättförstådd.

text.DEF is easy.understand.PASTP

〈そのテキストは理解しやすい。〉

- 31) Ronny däremot, han är lättgillad. (ネットからの実例)

Ronny on.the.other.hand he is easy.like.PASTP

〈一方、ロニーは好かれやすい。〉

以上みてきたように、動詞の語彙アスペクトに関する制約はなさそうである。それではどのような他動詞でも、この構文に参加できるかというところでもなく、sakna (lack), föredra (prefer), behöva (need) のようないわゆる無意志動詞はこの構文を形成することができない。

- 32) *Nycklar är lättsaknade.

keys are easy.miss.PSTP

〈鍵はなくしやすい。〉

- 33) *Hans verk är lättföredragen.

his work is easy.prefer.PSTP

〈彼の作品は好まれやすい。〉

- 34) *Denna regle är svårbehövd när de nya reglerna införs.

this rule is difficult.need.PSTP when the new rules.DEF introduce.PASS

〈このルールは新しいルールが導入されたら必要とされにくくなる。〉

ここまで見てきた例からも分かるように、この構文では基本的には他動詞が用いられるが、自動詞であってもいわゆる意志動詞であれば、この構文に参加しうる。その際、動詞の本来の斜格名詞句が主語になる。ただし、35) のような移動の経路か36) のような動作の相手が主語になる場合が多いようである。

- 35) Mittenälvsborg är relativt platt och lättcyklat. (Korp)

Mittenälvsborg is relatively flat and easy.cycle.PSTP

〈Mittenälvsborg は比較的平らで自転車を乗りやすい。〉

- 36) Anja var blyg och svårpratad. (Korp)

Anja was shy and difficult.talk.PSTP

〈アーニャは恥ずかしがり屋で話しにくい。〉

また、この際いわゆる前置詞残留 (preposition stranding) は起こらない。これに関しては、次の節で詳しく見る。

4. 過去分詞属性描写構文と難易構文 — 語彙的か統語的か? —

ところで、中間構文と機能的に類似した構文として、以下に挙げるような、いわゆ

る「難易構文 (*tough construction*)」がある.

- 37) The book is easy to read. [英語]
 38) Das Buch ist leicht zu lesen. [ドイツ語]
 the book is easy to read
 〈その本は読みやすい.〉
 39) Boken är lätt att läsa. [スウェーデン語]
 book.DEF is easy to read
 〈その本は読みやすい.〉

難易構文は上記の例からもわかるように、不定詞の意味上の目的語が、主文の主語に対応し、主語の属性・特徴を述べる文であり、その点で中間構文・過去分詞属性描写文と類似している。さらに、難易構文と過去分詞属性描写文は、どちらも形容詞文であること、またどちらも *lätt* (easy), *svår* (difficult) という難易形容詞を用いるという点でも似ている。実際、次の 40) の難易構文と 41) の過去分詞属性叙述文が表わす意味はほぼ同じである。

- 40) Det här problemet är svårt att lösa.
 this problem.DEF is difficult to solve
 〈その問題は解決しにくい.〉
 41) Det här problemet är svårlöst
 this problem.DEF is difficult.solve.PSTP
 〈その問題は解決しにくい.〉

この二つの構文に見られる違いは前置詞残留についてである。難易構文では前置詞の目的語が主語に対応する場合は、42), 44) から分かるように必ず前置詞が残留しなければならない。一方、過去分詞属性描写文では、43), 45) から分るように、前置詞の残留は許されない。

- 42) Hon är lätt att prata *(med).⁵ [難易構文]
 she is easy to talk with
 〈彼女は話しやすい.〉
 43) Hon är lättpratad (*med). [過去分詞属性描写文]
 she is easy.talk.PP with
 〈彼女は話しやすい.〉
 44) Musiken är lätt att lyssna *(på). [難易構文]
 music.DEF is easy to listen on
 〈この道は車を運転しにくい.〉

⁵ 一般的な言語学の表記の慣習に従い、*(med) は med がない場合は非文で、(*med) は med があると非文であることを表している。

- 45) Musiken är lättlyssnad (*på). [過去分詞属性描写文]

music.DEF is easy.listen.PSTP on

〈この道は車を運転しにくい。〉

このことは、難易構文が統語的な構文であるのに対し、属性描写過去分詞は語彙部門で派生されていることを示している。というのは、46) からも分かるように、一般的に統語規則であると考えられる受動文の形成では前置詞の残留するのに対し、語彙規則では47) のように前置詞を削除してしまうと考えられているからである。

- 46) He was laughed at.

- 47) laugh at → *laughatable/ laughable

以上この節では属性描写過去分詞は語彙部門で派生されるものであることを主張した。

5. 英語・ドイツ語・スウェーデン語における違いからみた中間構文の派生

英語の中間構文の派生をめぐる様々なものが提案されている。代表的なものでは、Keyser and Roeper (1984) による統語的な分析があり、受動文の場合と同じようにNP 移動が関与していると主張している。また、語彙的派生を主張するものとして、Fagan (1992) がある。彼女は動詞の外項に総称的解釈を与え（その結果、外項は統語構造には投射されず）、直接内項が外項化されるという語彙規則を提案している。これらについて、ここでひとつひとつ検討する余裕はない。以下では、英語・ドイツ語の中間構文及びスウェーデン語の過去分詞属性描写文と関連する構文を検討することで、機能主義的観点から中間構文の派生の問題を考えていくことにする。

英語・ドイツ語における中間構文は動詞の形式は能動であるが、文全体の意味は受動に近く、受動文との関連性が指摘されてきた。また、他動詞の目的語に対応する名詞句が主語に対応し、動詞は能動態のままであることから、the vase broke のような「能格文 (ergative construction)」との類似性もある。しかし、これらの構文との間には様々な違いも存在する。受動文・能格文が出来事を叙述するのに対し、中間構文は主語の性質を描写する総称文である。また、受動文は動作主の存在を含意し、それを統語上に斜格として表出することができるが、一方、能格文は動作主を含意しない。中間構文は動作主を含意するという点では受動文に近いが、それを統語上に表出することはできない。

英語・ドイツ語・スウェーデン語の受動文・能格文がどのような手段で表現され、中間構文・過去分詞属性叙述文が受動文・能格文とどのような関係にあるかを見たい。以下では、能動文・受動文・能格文に関しては open/öffnen/öppna を例とし、中間構文・過去分詞属性叙述文については read/lesen/läsa を例とする。まずは英語とドイツ語の場合を見てみよう。

- 48) a. He opened the door. [能動文]
 b. The door was opened. [受動文]
 c. The door opened suddenly. [能格文]
 d. The book reads easily. [中間構文]
- 49) a. Er öffnete die Tür [能動文]
 he opened the door
 〈彼はドアを開けた。〉
 b. Die Tür wurde geöffnet [受動文]
 the door was open.PSTP
 〈ドアが開けられた。〉
 c. Die Tür öffnete sich plötzlich. [能格文]
 the door opened RM suddenly
 〈ドアが突然開いた。〉
 d. Das Buch liest sich leicht. [中間構文]
 the book read RM easily
 〈この本は簡単に読める。〉

48c) と 48d) を比べると分かるように、英語ではゼロ派生で能格文と中間構文を形成する。一方ドイツ語は、49c) と 49d) から分かるように、再帰代名詞を伴って能格文と中間構文を作っていることが分かる。つまりゼロ派生か再帰代名詞かという違いはあれ、英語もドイツ語も能格文と同じ手段で中間構文を形成している点に注意されたい。次に、スウェーデン語の例を見てみよう。

- 50) a. Han öppnade dörren. [能動文]
 he opened door.DEF
 〈彼はドアを開けた。〉
 b. Dörren var öppnad. [受動文]
 door.DEF var open.PSTP
 〈ドアが開けられた。〉
 c. Dörren öppnade sig plötsligt. [能格文]
 door.DEF opened RM suddenly
 〈ドアが突然開いた。〉
 d. Boken är lättläst. [過去分詞属叙述文]
 book.DEF is easy.read.PSTP
 〈この本は簡単に読める。〉

スウェーデン語では、50b) と 50d) を比べると分かるように、過去分詞という受動文と同じ手段で、属性表現を形成する。以上をまとめると次の表1のようになる。

	英 語	ドイツ語	スウェーデン語
受動文	過去分詞	過去分詞	過去分詞
属性表現	ゼロ	再帰代名詞	
能格文			再帰代名詞

表 1

中間構文を形成する際に、英語・ドイツ語が能格文と同じ手段を用い、一方、スウェーデン語は受動文と同じ手段を用いる。さて、受動文と能格文という2つの異なる構文の間には「動作主の背景化 (agent-defocusing)」という共通性があるものと考えられる。受動文が動作主を背景化するという点に関しては、すでに Shibatani (1985) で説得的に述べられているのでここでは繰り返さない。しかし、能格文において動作主が背景化されているかどうかに関しては議論の余地のあるところである。ドイツ語の能格文は再帰代名詞を取ることから、明らかに他動詞（使役）が基本となり、そこから自動詞（起動）が形成されていると考えられる（ドイツ語の使役交替に関する詳細は大矢（2008）を参照のこと）。一方、英語に関しては、使役交替において形態的な変化がないため、他動詞と自動詞のどちらが基本なのかは形の上からは判断できない。実際、自動詞を基本とし他動詞を派生させる分析（Pinker 1989 など）と他動詞から自動詞を派生させる分析（Levin and Rappaport Hovav 1995 など）が存在する。本稿では後者の立場を支持するわけであるが、それに関しては次のような経験的な証拠がある。

51) a. He broke the window.

b. The window broke.

52) a. He broke the promise.

b. *The promise broke.

Levin and Rappaport Hovav (1995) によると、51a) の break の目的語である window は 51b) の自動詞の break の主語としても可能である。一方、52a) の promise は、52b) の自動詞の break の主語にはなれない。つまり、自動詞用法の主語であれば他動詞の目的語であることも可能であるが、その逆は必ずしも成り立たないことになる。このことを説明するためには、他動詞が基本でありそこから自動詞が派生されるという説明が正しいと主張している。以上のような主張が正しいとすると、英語の能格文は、ドイツ語と同様に他動詞が基本でそこから動作主を背景化することで派生されると考えることができる。

以上、ここまで見てきたように、能格文も受動文も、動作主の背景化という語用論的機能を持っていると考えられる。すでに Shibatani (1985) が述べているように、この動作主の背景化という構文機能が「対象物」における「可能性」の存在という意味を可能にしていると考えられる。つまり、中間構文は普通、「動作主」が用いる「対象物」の潜在的な「可能性 (possibility)」を述べる文であるが、それは「誰が用いても動詞が叙述する動作が可能である」ということであり、動作主は事態の生起の主導者 (initiator) ではないということになる。つまり、動作主を主語の位置からははずす（つまり動作主の背景化）という構造によって、類像的 (iconic) に意味を反映しているといえるのである。

6. なぜ過去分詞か？ — まとめに代えて —

さて、以上見てきたように英語・ドイツ語のように能格文と同じ手段を使った場合も、スウェーデン語のように受動文と同じ手段を使った場合も「動作主の背景化」という機能が共通しているために、対象の属性・可能性といった意味が可能になることが分かった。しかし、そもそも何故スウェーデン語では過去分詞を用いるのであろうか。Haspelmath (1994) は受動分詞 (Passive Participle) つまり過去分詞に関する類型論的研究である。彼の研究によると、過去分詞の主要な機能は結果完了と受動であり、やはりスウェーデン語の対象物の属性描写という機能は稀なようである。そこで、スウェーデン語の過去分詞一般の働きについて考えてみたい。英語とドイツ語においては、過去分詞が受動態と完了形の両方に用いられる。

53) The letter was written by him. [受動文]

54) He has written the letter. [完了形]

一方、スウェーデン語では受動態には過去分詞が用いられるが、完了形には過去分詞とは別の supinum という形が用いられる。この supinum はもともと過去分詞の中性単数形から発達したものであり、現在でも両者は多くの場合は同一であるが、以下の 55) と 56) から分かるように異なる形態をとるものもある。また、23) で見たように、過去分詞が名詞の 55) では主語名詞の) 性と数に一致するのに対して、supinum ではそのような一致は起こらない。

55) Brevet är skrivet av honom. [受動文]

letter.N.SG.DEF is write.PSTP.N.SG by him

〈その手紙は彼によって書かれた。〉

56) Han har skrivit brevet. [完了文]

he has write.SUP letter.DEF

〈彼はその手紙を書いた。〉

つまり、完了形の用法を持たないスウェーデン語の過去分詞は、英語・ドイツ語に比べて機能負担量が少ないといえることができる。さらに、最近の研究によると過去分詞

を用いた受動文もその機能を弱めてきている。スウェーデン語には2つのタイプの受動文が存在する、ひとつは迂言的な受動文で、助動詞 bli (become) あるいは vara (be) と過去分詞を組み合わせたもの。もうひとつは、接尾辞-sを動詞に付加するものである。この接尾辞 -s は再帰代名詞 sig と語源的に同じものである。Engdahl (2001) のコーパスを用いた研究によると、現代スウェーデン語においては接尾辞-s を用いた受身文のほうが、過去分詞を用いた受身文よりも頻度が高く、無標であると述べている。以上を考慮すると、スウェーデン語の過去分詞は、英語・ドイツ語のそれと比べて、完了形を作る機能を持たず、また受動文においても頻度が低く、有標な形式であるということになる。

	英 語	ドイツ語	スウェーデン語
受動文	過去分詞	過去分詞	接尾辞-s/過去分詞
完了文			supinum

表 2

表 2 から分かるように、機能を縮小してきたスウェーデン語の過去分詞が、いわゆる形容詞的受身 (adjectival passive) へとその機能を特化させていき、過去分詞属性描写文のようなスウェーデン語に特有な構文を発達させていったという想定を筆者は立てているが、その通時的な検証は今後の課題としたい。

略号一覧

DEF : (後置) 定冠詞, N : 中性, NON-N : 共性, PASS : 受動形態素, PL : 複数,
PSTP : 過去分詞, RM : 再帰代名詞, SG : 単数, SUP : 完了分詞

Om perfektparticip som anger egenskap i svenskan.

Takayuki Tohno

Sammanfattning

I denna artikel diskuterar jag en konstruktion av typen *Boken är lättläst* och *Han är svårpratad*, dvs. meningar som innehåller sammansatta perfektparticip där *lätt* eller *svår* är förled och ett perfektparticip är efterled. Denna konstruktion har följande särdrag:

1. Det sammansatta perfektparticipet [*lätt/svår* + perfektparticip] anger en egenskap hos en referent.
2. Det sammansatta perfektparticipet är inte verbalt utan adjektiviskt.
3. Förleden *lätt/svår* kan inte kombineras med perfektparticip av verb som betecknar aktion som oavsiktligt utförs eller kontrolleras, t.ex. **lättföredragen*, **svårbehövd*, **lättsaknad* etc.
4. Även perfektparticip av intransitiva verb kan vara efterled, t.ex. *svårpratad*, *lätncyklad*, *lättyssnad* etc.
5. En rektion i bundet adverbial kan motsvara subjektet i denna konstruktion och prepositionen till rektionen måste strykas i sådana fall, t.ex. *Han är svårpratad (*med)*. (Jfr *Det är svårt att prata med honom*.)

Denna konstruktion har starka likheter med den s.k. ”Middle construction” i engelskan (*The book reads easily*) och tyskan (*Das Buch liest sich leicht*). Dessa konstruktioner i tre språk visar olika syntaktiska mönster, men utnyttjar samma strategi – ”agent defocusing” (Shibatani 1985).

参考文献

- Engdahl, Elisabet. 2001. Valet av passivform i modern svenskan. *Svenskans beskrivning* 24, 81-90. Linköping: Linköping university Electronic Press.
- Fagan, Sarah. 1992. *The Syntax and Semantics of Middle Constructions in English*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Fellbaum, Christiane . 1985. Adverbs in agentless actives and passives. *CLS* 21, 21-31. Chicago: Chicago Linguistic Society.
- Haspelmath, Martin. 1994. Passive participles across languages. Babara Fox & Paul Hopper (eds.) *Voice: Form and Function*, 151-77. Amsterdam: John Benjamins.
- Keyser, Samuel and Thomas Roeper. 1984. On the middle and ergative constructions in English. *Linguistic Inquiry* 15, 381-416. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- Levin, Beth and Malka Rappaport Hovav. 1995. *Unaccusativity: At the syntax-lexical semantics interface*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- 大矢俊明. 2008. 『ドイツ語再帰構文の対照言語学的研究』. 東京：ひつじ書房.
- Pinker, Steven. 1989. *Learnability and Cognition: The acquisition of argument structure*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- Shibatani, Masayoshi. 1985. Passive and related constructions. *Language* 64, 821-848. Washington, DC : Linguistic Society of America.
- Sundman, Marketta. 1987. *Subjektval och diates i svenskan*. Åbo: Åbo Academy Press.

コーパス

(Korp) Korp <http://spraakbanken.gu.se/korp/>



清水先生が長年研鑽を積まれたウップサーラ大学講堂（1887年に開館）
撮影者：清水育男（2007年夏）